

## 第6学年音楽科学習指導案

### 1 題材名 曲想を味わおう

教材名 音楽づくり「和音の音で旋律づくり」

「きらきら星変奏曲」モーツァルト作曲

鑑賞 「ハンガリー舞曲」ブラームス作曲

### 2 題材について

《新学習指導要領とのかかわり》

A表現（3）ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。

(ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。

(イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。

イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解すること。

(イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴

ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能

(イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能

B鑑賞（1）ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。

イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。

[共通事項]

ア 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり

イ 反復、変化

#### (1) 題材観

本題材の「曲想を味わおう」は、低学年の「ようすをおもいうかべよう」「どれみでうたったりふいたりしよう」「音のたかさのちがいをかんじとろう」中学年の「旋律の特徴を感じ取ろう」から発展した学習である。児童はこれまでに、様々な活動を通して、旋律の音の上がり下がりやリズム、速度や強弱、和声の響きや調、そして旋律やリズムの反復や問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係などについて学習してきた。

本題材では、これらのいろいろな音楽を形づくっている要素が一体となって醸し出す曲想を味わうことをねらいとしている。これまでの学習で児童は、音楽を形づくっている要素の「強弱」「音色」「速度」の3つを捉え、イメージを膨らませたりすることが多かった。しかし、それ以外

の音楽を形づくっている要素については、感じ取ることが難しい傾向にある。これらのことを踏まえ、すでに意識できている「音色」を限定した変奏曲の旋律づくりを通して、テーマとなる基は同じ旋律が、リズムや旋律の音の動きなどといった音楽を形づくっている要素を変化させることによって、曲想が変わることを感じ取らせる。そうすることで、「音色」以外の音楽を形づくっている要素にも目を向けられるようにしたい。また、自分の思いやイメージに対して、音楽を形づくっている要素の働きをどのように変化させたらよいか、より音楽的な見方・考え方を働かせて表現の仕方を工夫できるように変わってまいりたいと考える。

この学習を生かして「ハンガリー舞曲」を鑑賞した際にも、より多くの音楽を形づくっている要素を捉えて曲想の変化を感じ取ることができるようになると考える。また、音楽が表す情景や様子などをイメージするだけでなく、どうしてそう感じたのかさまざまな音楽を形づくっている要素の働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることの両者のかかわりについて気付くことができるようになると思う。

## (2) 指導観

本題材では、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりに気付かせたい。児童の実態から、音楽を形づくっている要素のうち、速度や強弱、音色以外については感じ取ることが難しい傾向にある。そこで、既に着目できている「音色」以外の要素に目が向くように、音色が限定されていて曲想が変わる変奏曲を教材として扱うことが効果的なのではないかと考えた。また、実際に、自分の表現したいイメージに合うように、音楽を形づくっている要素を意識して旋律づくりを行うことで曲想との関わりをより強く意識できるようになると考える。

そこで、音楽づくりへの抵抗感を低くするため、そして変奏曲づくりの手がかりとなるように、常時活動として、音楽を形づくっている要素を意識できるようなテーマで即興旋律づくりを行う。常時活動を通して、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりについて気付かせ、旋律づくりをする際の手がかりとなるようにしたい。

まず、「きらきら星変奏曲」の一部分を聴き、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりに気付かせる。その際、児童が気付いたことを掲示物として残しておく。

次に、旋律づくりを行う。「きらきら星」の旋律を自分のイメージに合わせて変奏していく。「きらきら星」はABAの二部形式で構成されているが、児童の実態に応じて、一曲すべてを変奏する、Aのみを変奏する、Bのみを変奏する、の3つから選べるようにする。はじめにどんな様子の「きらきら星」をつくるのかイメージをふくらませ、絵や図、言葉にして表現する。イメージが決まったら、「きらきら星変奏曲」を聴いた際の掲示物を参考にしながら、リズムや旋律などを変化させてイメージに近づけるよう、実際に音に出しながら試行錯誤していく。基となる「きらきら星」のテーマから児童によってさまざまな旋律が生まれ、リズムや旋律などが変化することによって曲想が変わることに気付くことができるのではないかと考える。

そして、できあがった旋律を友達に紹介することで、どのようなイメージをもち、音楽を形づくっている要素をどのように意識して表現の工夫をしたのか、などについて自身の工夫を振り返ったり、友達の旋律のよさや面白さを味わったりすることができると思う。

最後に、「ハンガリー舞曲」を鑑賞する。音楽づくりの経験を生かし、音楽を形づくっている要素の働きが生み出す音楽のよさや美しさを感じ取りながら、音楽を聴く楽しさをより味わうことができるようになると思う。

児童は思いを伝えることの大切さを理解し、伝えたいという意欲ももっている。だからこそ、それを言葉や音で表現する方法をこの学習を通して試行錯誤しながら見つけていくことで、表現の工夫の仕方が分かり、自分の思いを音にすることの面白さや喜びを感じることができると考える。一つの音楽を友達と一緒に作り上げることの楽しさや喜びを味わうことができるようにしたい。

### 3 題材の目標

- 音楽を形づくっている要素と曲想との関わりに気づき、リズムや音の動き方、連なり方などを工夫して旋律をつくる。
- 曲想とその変化を感じ取りながら、旋律の特徴、反復や変化、強弱や速度などによる楽曲の構造を理解して聴く。

### 4 題材の評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規準	①いろいろな音楽表現に興味・関心をもち、音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 ②旋律の特徴や、反復、変化などに興味・関心をもち、曲想の変化を感じ取って聴く活動に主体的に取り組もうとしている。	リズムや旋律などの音楽を形づくっている要素の働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、自分のイメージに合うように、まどまりのある旋律に仕上げることについて見通しをもっている。	自分のイメージに合うように、和音に含まれる音や音楽を形づくっている要素を使って旋律をつくっている。	旋律の反復や変化、強弱や速度の変化を聴き取り、それらが生み出す曲想の移り変わりを感じ取りながら、楽曲の構造を理解して聴いている。

### 5 研究の視点について

【視点1】9年間を見通した学び方の共有

#### ①音楽を形づくっている要素を感じ取るための手立て

##### A 常時活動

鍵盤ハーモニカを用いて即興的な旋律づくりを行う。この際、音楽的な約束事を決めて音楽を形づくっている要素を意識しながら行うことで、その音楽を形づくっている要素の働きが生み出す曲想との関わりに気付けるようにする。また、即興的な偶然性からさまざまな音楽表現が生まれたりする。その中でさまざまな発想を得たり、感じ方の違いを知ったり、さらにはそれを表現に生かす方法を考えたりすることが旋律づくりをするためのスモールステップとなる。また、リコーダーは「今月のリコーダー」として毎日演奏しており慣れているが、鍵盤ハーモニカは高学年になり触れる機会も減ってきている。そこで、こうした常時活動で取り上げることで、鍵盤ハーモニカの演奏にも慣れ、スムーズに旋律づくりに取り組めると考える。

##### B 掲示物

音楽を形づくっている要素と曲想との結びつきについて、常時活動やこれまでの学習で気付いたことを掲示し、いつでも活動に生かせるようにしていきたい。児童の気づきや感じ取ったことを児童の言葉で掲示物として残しておくことで、旋律づくりの際に、掲示物の中から自分のイメ

ージに合うものを選んだり、組み合わせたりすることができ、自分のイメージするものに近づけていく手助けになると考える。また、音楽を形づくっている要素を身近なものに例え、「音楽の調味料」として掲示しておき、音楽を形づくっている要素の表れ方やその働きによって曲想の感じ取り方が変わることを意識できるようにしたい。どの調味料をどのように使えばよいかはわかることによって、「なんとなくこんな感じが好きだから」「イメージに合うから」という漠然とした思いではなく、「旋律をこうすると音の動きが滑らかになって、星がゆるやかに動いていく様子を表現できるからこうしたい」と、音楽を形づくっている要素が思いや意図の根拠となって旋律をつくることができようになると考える。

### C教材選択の工夫

小学校段階においても、学年をまたいで同じ曲を扱うことで、興味関心をもって取り組みやすく、音楽に親しむことができるものとする。ここでは、既習曲であり、鍵盤ハーモニカでの演奏経験のある「きらきら星」を教材として扱うことで、技能面での不安が軽減され、自分のイメージと音楽を形づくっている要素との関わりなど、技能以外のことにより着目して旋律づくりを進めていくことができると考える。また、「きらきら星変奏曲」「かえるの合唱」「さくらさくら変奏曲」など、耳馴染みのある既習曲を扱うことで、よりねらいに迫った学習活動を行ってきたい。

このように、児童が慣れ親しんでいる曲を扱いながら、音楽のよさや美しさ、面白さなどを感じ取る経験を重ねていくことで、中学校では、さらにその文化や歴史などとの関わりを理解しながら、より音楽のよさや美しさなどを味わうことができると考える。そして、大人になっても音楽を愛好する心情をもって主体的に音楽に関わることができるようになってほしいと願っている。

## ②自分の思いを表現するためのワークシートの工夫

### Aイメージをもち、つくった音楽を可視化するワークシート

旋律をつくるにあたり重要視したいのが、個の思いである。表現したいイメージをもってそれを音にするためにはどうしたらよいのか試行錯誤するなかで、音楽を形づくっている要素とイメージ（曲想）との関わりに気付かせたい。そこで、はじめにイメージを絵や図、言葉にして表すことにする。そして旋律づくりの際にもそれを拠り所として、自分のつくった旋律がイメージに近づいているか、確かめられるようにする。そうすることで、即興的な旋律づくりと違い、自分の思いを音で表現した旋律づくりができるものとする。

### B個に応じたワークシート

児童の旋律づくりに対する抵抗感を少しでも減らすために、さまざまなタイプのワークシートを用意し、児童自身が選択できるようにする。階名を書き込むもの、音符を書き込むもの、和音から音を選ぶものなど、「これならつくれそう」と思うものを選ぶことで、意欲を持続したまま自分のつくりやすいアプローチ方法で旋律づくりができるようにする。また、記譜を絶対条件とせず、あくまで記録のためとし、楽譜でなくとも言葉や図を用いて分かる形で残せばよいこととした。

6 題材の指導計画及び評価計画（5時間扱い）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
		<p>【常時活動】鍵盤ハーモニカを使った即興的な旋律づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1音のみでリズム（リズム）</li> <li>・隣の音に動く（リズム、旋律）</li> <li>・和音の3音から（リズム、旋律、和音）</li> <li>・短調の音階から（リズム、旋律、調）</li> </ul>	
第一次		<p>ねらい 音楽を形づくっている要素と曲想との関わりに気付き、リズムや音の動き方、連なり方などを工夫して旋律をつくる。</p> <p>教材名 「和音の音で旋律づくり」（きらきら星変奏曲）</p>	
	1	<p>○「きらきら星変奏曲」の一部を聴き、どのような変奏になっているのか気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変奏の工夫（技）にそれぞれネーミングする。</li> </ul>	<p>いろいろな音楽表現に興味・関心をもち、音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>（音楽への関心・意欲・態度①）</p>
	2	<p>○どのような曲をつくるのかイメージを絵や言葉で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・星の様子を、いつ、どこで、どのように、と擬人化するなどしながら具体的なイメージを膨らませる。</li> <li>・つくりたい旋律の長さを選択する。</li> </ul> <p>（Aのみ/Bのみ/AB）</p> <p>○和音に含まれる音を使って、自分のイメージに合う旋律の音の上がり下がりを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成音を軸にして、イメージに合った旋律の動きを考える。</li> </ul>	<p>自分のイメージに合うように、和音に含まれる音や音楽を形づくっている要素を使って旋律をつくっている。</p> <p>（音楽表現の技能）</p>
	3 （本時）	<p>○つくった旋律を工夫して、気に入った旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムや音の動き方、連なり方などを工夫して自分のイメージに合う旋律づくりをする。</li> <li>・できた旋律をABA形式にして一曲通して演奏する。</li> </ul>	<p>リズムや旋律などの音楽を形づくっている要素の働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、自分のイメージに合うように、まとまりのある旋律に仕上げることについて見通しをもっている。</p> <p>（音楽表現の創意工夫）</p>
	4	<p>○つくった旋律を発表し、それぞれの変奏のよさや面白さを味わう。</p> <p>○「きらきら星変奏曲」を一曲通して聴く。</p>	<p>旋律の特徴や、反復、変化などに興味・関心をもち、曲想の変化を感じ取って聴く活動に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>（音楽への関心・意欲・態度②）</p>
第二次		<p>ねらい 曲想とその変化を感じ取りながら、旋律の特徴、反復や変化、強弱や速度などによる楽曲の構造を理解して聴く。</p> <p>教材名 「ハンガリー舞曲」</p>	

5	<p>○曲想の変化を感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の反復や変化、強弱、速度、拍子などの曲想の移り変わりをを感じ取って聴く。</li> <li>・想像したことや感じ取ったことを伝え合い、もう一度聴く。</li> </ul>	<p>旋律の反復や変化、強弱や速度の変化を聴き取り、それらが生み出す曲想の移り変わりをを感じ取りながら、楽曲の構造を理解して聴いている。(鑑賞の能力)</p>
---	--	---

## 7 本時の学習 ( 3 / 5 )

### (1) 本時の目標

- 曲想とリズムや旋律などの音楽を形づくっている要素との関わりに気付き、自分の思いや意図をもって、それらを工夫して旋律をつくる。

### (2) 展開

時配	学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準 (評価方法)
6分	<p>1 はじめのあいさつ 「さあ はじめよう」を歌う。</p> <p>2 和音の音で即興旋律づくりをする。 ・教師の提示したテーマに合わせて、一人4拍の旋律を考え、鍵盤ハーモニカで演奏する。 ○楽しい感じ スキップしているようなリズムにしてみたよ 音の上がり下がりを激しくしてみたよ ○悲しい感じ ゆったりとしたリズムにしてみたよ となり合う2音だけを使ってみたよ</p> <p>3 本時のめあてをもつ。 ・常時活動から曲想の変化とリズムの関係に気付く。</p> <p>(音楽の調味料を使って) 自分のイメージに合った「きらきら星変奏曲」をつくろう。</p>	<p>○教師のかかわり ◆評価規準 (評価方法)</p> <p>○ピアノ伴奏をしながら、表情や姿勢、歌声をもとに児童の調子やクラス全体の雰囲気把握する。</p> <p>○常時活動で行っている即興的な旋律づくりを行い、旋律の動きと曲想とのかかわりに目を向けられるようにする。</p> <p>○どんな工夫をしたのか曲想と音楽を形づくっている要素とを関連づけていく。</p> <p>○曲想の変化にリズムの変化が大きく関わっていることに気付けるようにする。</p>
30分	<p>4 旋律づくりの方法 (ルール) を確認する。</p> <p>[音楽の調味料] リズム／旋律／音の高さ 音の重なり／強弱／速度／調／拍子</p> <p>[ルール] ・つくった旋律は、楽譜やリズム譜、ことばにして記録する。 ・できた旋律を鍵盤ハーモニカやリコーダーを使って実際に音に出して確かめる。 ・できた旋律を和音伴奏に合わせて演奏する。 ・活動に合わせて場所を変える。</p>	<p>○音の上がり下がりにリズムをあてはめる方法を例示する。(4拍) 「きらきら星変奏曲」のリズムだけを取り出して、テーマの4分音符のリズムがどのように変化しているのかを確認できるようにする。</p> <p>○ワークシートを何パターンか用意し、自分のつくりやすいものを児童自ら選ぶようにする。</p> <p>○リズムが思い浮かばない児童のために、リズムパターンを掲示・ワークシートに記載し、いつでも参考にできるようにする。</p>

	<p>5 旋律の上がり下がりやイメージに合うリズムを考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>①一人で作る。          ②先生や友達と相談しながら作る。          ③できた旋律を友達とつなげたり、和音伴奏に合わせたりする。</p> </div> <p>星が踊っていたら、それを見つけた仲間たちが集まってみんなで踊って楽しくなる感じにしたいから、タツカのリズムにしよう！だんだんリズムを細かくしてみよう！</p> <p>星がやさしく子守唄を歌ってくれている感じにしたいから、ゆったりしたリズムにしよう！</p> <p>となり合う音を使って、旋律の上がり下がりやゆるやかにしたらやさしい感じになるかな？</p> <p>もっと星が光輝く感じにしたいから、音を強くしてみよう。</p> <p>流れ星が流れる様子を表現したいから、もっと速くしてみようかな。</p>	<p>○進捗状況に合わせて、活動場所を分ける。</p> <p>○できた旋律は実際に音に出して確かめるように促す。</p> <p>○演奏が苦手な児童については、友達が代わりに演奏したり、教師が演奏をしたりして、つくった旋律を確かめられるようにする。</p> <p>○友達と合わせる方法もいくつか例示し、児童が自ら選択してさまざまな演奏方法を試せるようにする。</p> <p>○よりイメージに近づけるために、他に工夫できる音楽を形づくっている要素がないか、これまでの学習の掲示物を手掛かりとして考えられるようにする。</p> <p>○できた旋律を ABA 形式にして一曲通して演奏したり、友達の旋律と合わせて演奏したりしてもよいことを伝える。</p> <p>○できた旋律を記録するよう声かけをする。</p> <p>○拍子や調を変化させたい児童がいた場合には、新たにワークシートを用意し、その方法を伝え、支援する。</p> <p>〈音楽表現の創意工夫〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆リズムや旋律などの音楽を形づくっている要素の働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、自分のイメージに合うように、まとまりのある旋律に仕上げることについて見通しをもっている。</p> <p>(活動観察・演奏聴取・発言・ワークシート)</p> </div>
<p>9分</p>	<p>6 本時の振り返りと次時の活動内容の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できた旋律を発表する。</li> <li>・つくりたい音楽のイメージと、そのためにどの調味料を使ったのかを必ず伝える。</li> <li>・「なでしこふりかえり」をする。             <ul style="list-style-type: none"> <li>㊦るほど</li> <li>㊧きた</li> <li>㊨りたい</li> <li>㊩うしたい</li> </ul> </li> </ul>	<p>○本時の活動を振り返るとともに、次時への意欲づけを図る。</p> <p>○旋律はできたが、どの要素を使ったのか自分でつかめていない児童については、他の児童に工夫のポイントを見つけるよう促したり、教師が代わりに言葉にしたりして全体で共有できるようにする。</p>





# 曲想を味わおう

「和音の音で旋律づくり」 きらきら星変奏曲をつくろう

6年 組 番 名前

1 つくりたい「きらきら星」のイメージを絵やことばにしましょう。

- (例) ・星が踊っていたら、それをみつけた仲間たちが集まってきて、みんなで楽しく踊っている様子。
- ・星がやさしく子守唄を歌ってくれている様子。

星は何をしている？  
どれくらいの数？  
人間に例えて考えてみても  
いいね



Large empty rounded rectangular box for drawing or writing.

A

旋律の  
上がり下がり

2/4

I	I	IV	I
ド	ド	ド	ド
ソ	ソ	ラ	ソ
ミ	ミ	ファ	ミ
ド	ド	ド	ド

リズム

--	--	--	--

2/4

旋律の  
上がり下がり

2/4

IV	I	V	I
ド	ド	ソ	ド
ラ	ソ	ソ	ソ
ファ	ミ	ソ	ミ
ド	ド	ソ	ド

リズム

--	--	--	--

2/4

# B

旋律の  
上がり下がり

2/4

I V<sub>7</sub> I V<sub>7</sub>

ド	ソ	ド	ソ
レ	シ	レ	シ
ミ	ラ	ミ	ラ
ファ	ミ	ファ	ミ
ソ	ド	ソ	ド

リズム

2/4

旋律の  
上がり下がり

2/4

I V<sub>7</sub> I V<sub>7</sub>

ド	ソ	ド	ソ
レ	シ	レ	シ
ミ	ラ	ミ	ラ
ファ	ミ	ファ	ミ
ソ	ド	ソ	ド

リズム

2/4

# A

旋律の  
上がり下がり

リズム

2/4

ド ド    ド ド    ド ド    ド ド

ラ    ラ    ラ    ラ

ファ    ファ    ファ    ファ

ド    ド    ド    ド

ド    ド    ド    ド

旋律の  
上がり下がり

リズム

2/4

ド    ド    ド    ド

ラ    ラ    ラ    ラ

ファ    ファ    ファ    ファ

ド    ド    ド    ド

ド    ド    ド    ド

# B

旋律の  
上がり下がり

2/4

♩	♩	♩	♩
I	V <sub>7</sub>	I	V <sub>7</sub>
♩	♩	♩	♩
♩	♩	♩	♩
♩	♩	♩	♩
♩	♩	♩	♩

リズム

旋律の  
上がり下がり

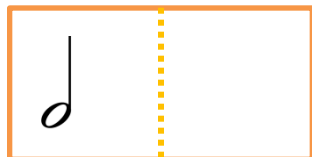
2/4

♩	♩	♩	♩
I	V <sub>7</sub>	I	V <sub>7</sub>
♩	♩	♩	♩
♩	♩	♩	♩
♩	♩	♩	♩
♩	♩	♩	♩

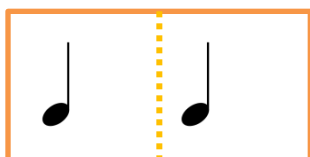
リズム

# 2拍のリズムパターン

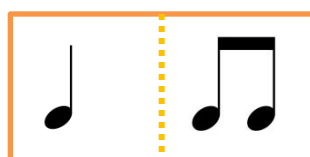
このほかにも組み合わせによっていろいろなリズムができるよ！イメージに合うリズムを選んだりつくったりしよう！



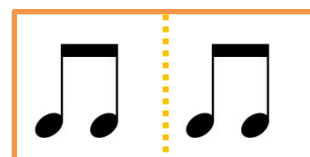
たー あー



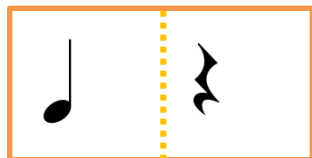
たん たん



たん たた



たた たた



たん ウン



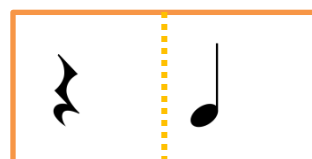
たん ウた



ウた たた



たつか たつか



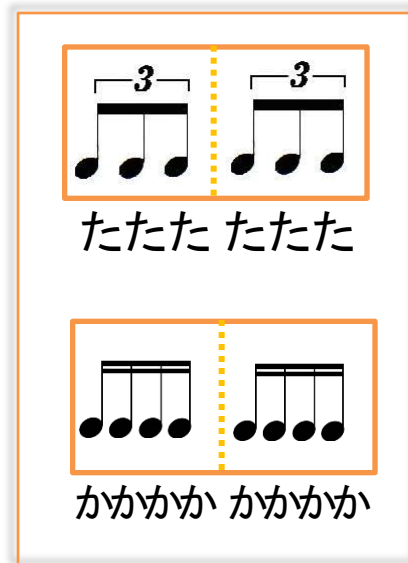
ウン たん



たウ たん



たたん た

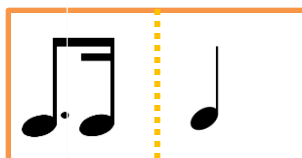


たたた たたた

かかかか かかかか



1拍ずつバラして  
新しい組み合わせを  
考えてもいいね♪



たつか たん